

2026年度 第1回 理事会 抄録

日 時： 2026年4月4日（土） 12：45～16：34

場 所： 日本理学療法士協会会館

出席者：

理 事： 齊藤、大工谷、吉井、佐々木、高橋、湯元、
白石、板倉、谷口、森本、伊藤、内山、江草、岡持、小川、沖原、
大西、野崎、松井、山根

監 事： 太田、櫻田、辺土名

欠席者

理 事： 長谷川、熊崎、永野

監 事：

I. 審議事項

(全8題)

1. 定款変更案についての件	(湯元副会長)	承認
定款変更案についての件について審議がなされ、総員賛成で承認された。		
(主な内容) 定款変更案については1月理事会で承認を頂いたところであるが、弁護士の関連規程レビューにおいて、上位規程である定款改正案が再確認され、6点修正した方がよいとの指摘を受けたため、審議がなされた。		
(主な意見) 特になし		
2. 第55回定時総会の議題の承認について	(白石専務理事)	承認
第55回定時総会の議題の承認について審議がなされ、総員賛成で承認された。		
(主な内容) 第55回定時総会について、法人法第38条に定める下記1点について、審議がなされた。		
1. 総会の目的である事項があるときは当該事項（議題）		
なお、法人法第38条に定める「総会の日時及び場所」および「書面及び電磁的方法による議決権行使の可否」については、2025年7月5日開催の理事会にて承認いただいていることを申し添える。		
(主な意見) ・定款を変更する際は、1号ずつ決議しなければならないのか。 →併せて決議をする場合、いずれかの条文が否決されてしまうと全て否定されてしまうことになる。以前に定款変更で複数の議題を1回で決議した際、一方は承認だがもう一方は否認という議論になったことがある。		

- ・議題が多すぎるため、まとめてほしい。整理できる議題はしたらどうか。
- ・数年前否決となった流れとして、役員報酬の件から始め、47都道府県士会を会員にするというのは否決、そのため役員報酬が減額された。そういった流れもあり、1議題ずつ決議すべきという反省を反映したのが今回の議題案だろう。所要時間10分も必要ないため、手短かに決議するという意味で電子採決という方法を採用し、併せて議長に申し合わせをする必要がある。そうしなければこの議題数をこなすのは困難である。

3. 会員歴50年の会員に対する感謝状贈呈の承認について (白石専務理事) 承認

会員歴50年の会員に対する感謝状贈呈の承認について、総員賛成で承認された。

(主な内容)

2026年4月1日時点で入会期間が50年となる16名の会員について、感謝状を贈呈することについて、審議がなされた。本件については、表彰委員会で審議し、表彰規程の要件を満たすと判断したため理事会へ推薦することを申し添える。

【対象者】

2026年4月1日において、入会期間が50年となる会員16名

※休会期間は除く

※2026年度年会費は現在請求中となっており、年会費未納の場合は感謝状の贈呈を見送る

(主な意見)

特になし

4. 第61回日本理学療法学会に関する感謝状贈呈の承認について (白石専務理事) 承認

第61回日本理学療法学会に関する感謝状贈呈の承認について、総員賛成で承認された。

(主な内容)

2026年5月23日、24日の第61回日本理学療法学会の開催都道府県士会、大会長に感謝状を授与することについて、審議がなされた。本件については、表彰委員会で審議し、表彰規程の要件を満たすと判断したため理事会へ推薦することを申し添える。

・開催都道府県士会

福岡県理学療法士会

・大会長

西浦 健蔵 氏 (福岡県理学療法士会会長)

(主な意見)

特になし

5. 「奈良勲先生を偲ぶ会」の開催について (白石専務理事) 承認

「奈良勲先生を偲ぶ会」の開催について審議がなされ、過半数以上の賛成を得て承認された。

(賛成16名、反対2名)

(主な内容)

本会の元会長、相談役として長年にわたり本会および理学療法士の発展に多大な功績を残された奈良勲先生が逝去されたことを受け、先生の功績を顕彰するとともに、会員が哀悼の意を表する機会として、本会主催による「奈良勲先生を偲ぶ会」を開催することについて、審議がなされた。

(主な意見)

- ・ 発起人会が記載されているため、「本会主催による」という文を削除すればよい。どこが主催か、共催かを記載する必要はない。
- ・ 3. 発起人に記載されている、代表は削除するか。今後を考えた際、代表とすると今後も代表にあり続けなければならないのではないか。また、大学は比較的発起人として動くのか。
→大学の立場というよりかは、「〇〇大学卒業生有志代表 △△△」や「□□学院大学 教員経験者一同代表」という立て付けである。
- ・ 外部情報を見ると会費制も選択肢としてある。なぜ今回は会費を取らないのか。
→会費を取るべきではないかという意見もあったが、本会の会員は全体的に平均年齢が若い会員が多い。やはり広く会員に参加していただくためには、今回は会費を徴収せず、供花という形で哀悼を表する形式とした。
- ・ 発起人会が全員公平という主旨の場合、なぜ本協会が全費用を拠出するのかという話となるため、明確にした方がよい。
- ・ 供花をお願いしやすいように、一人2万円は厳しいため、有志の方や遠方で当日参加が出来ない方々は連名で供花を受け付ける形にしてはどうか。
- ・ 供花は一人当たり2万円が確定か。例えば5千円からということはあるのか。
→業者から一基2万円と伺っている。一基に対して、何名で申し込んでいただいても構わない。しかし、振り込んでいただく際に、代表者の方には氏名を記載いただく。記載いただければ4名程度であれば併記できる。それ以上となるとパネルに併記できない恐れがあり、ご案内の方法を含め調整予定である。

6. 政策参与の委嘱について

(齊藤会長)

承認

政策参与の委嘱について審議がなされ、総員賛成で承認された。

(主な内容)

政策参与委嘱規程第4条に基づき、政策参与(1名)の委嘱について、審議がなされた。

政策参与候補： 田中 昌史 氏

(主な意見)

特になし

7. 新入会員の承認について(動向報告および賛助会員の入退会等含む)

(齊藤会長、大工谷副会長、吉井副会長、佐々木副会長、高橋副会長、湯元副会長)

承認

新入会員の承認について審議がなされ、総員賛成で承認された。

(主な内容)

定款第6条により、2026年2月15日～2026年3月15日の間、新たに申請をした正会員160人について、

審議がなされた。

なお、復会者 587 名、休会者 2,699 名、退会者 1,112 名、併せて賛助会員の退会 2 件であったことを報告する。

< 賛助会員 退会 >

【株式会社カインズ】

●退会理由

貴協会にサポートを依頼したく考えていた転倒防止の対策方法を見直すことになった為。

※2024 年入会

【ラグスタ株式会社】

●退会理由

現在の事業方針やリソース配分を鑑み、退会を希望する為。

※2025 年入会

(主な意見)

- ・ 賛助会員として入会し、短期間で退会する企業が散見される。ケアをしていくことで、行き違いが減るのではないかと。想像の域を出ないが、入会することで共同事業などをすぐに出来ると思っていたのではないかと。→すべての賛助会員にヒアリングするのは時間が掛かるが、現在 70 社のうち 20 社程度にヒアリングをしている。我々が何を提供できるかを共有しなければならない。ヒアリングの中で、協会が出来ることや事例等を提供した際に、関連したビジネスを考えられるような賛助会員も存在する。学会などには情報を提供し、賛助会員と一緒に協議できるよう繋ぎ役を今後も担っていきたい。

II. 報告事項

(全 14 題)

1. 2025 年度実施代議員選挙結果報告

(選挙管理委員会 梅本委員長)

2025 年度実施代議員選挙結果報告について、報告がなされた。

(主な内容)

2025 年度代議員選挙が実施されたため、結果の報告がなされた。

代議員選挙期間 : 2026 年 1 月 14 日 (水) ~ 3 月 17 日 (火)

代議員定数 : 300 名

投票実施都道府県 : 18

(北海道、岩手県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、富山県、
石川県、静岡県、愛知県、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、
山口県、高知県、福岡県、鹿児島県)

投票率 : 19.0%

異議申立 : 無し

(主な意見)

特になし

2. 2025 年度 第 4 四半期職務執行状況報告

(斉藤会長、大工谷副会長、吉井副会長、佐々木副会長、高橋副会長、湯元副会長、白石専務理事、板倉常務理事、谷口常務理事、長谷川常務理事、森本常務理事)

2025 年度 第 4 四半期職務執行状況報告について、報告がなされた。

(主な内容)

2026 年 1 月~3 月まで (第 4 四半期) の業務執行状況について、報告がなされた。

(主な意見)

- ・厚労省などから発出された診療報酬改定に関する疑義解釈について、その 2 まで発出されているが、Notebook LM 等に追加するのはいかがか。
→診療報酬改定に関する短冊や疑義解釈が発出された際、協会から何か提供できないかと考えている。方法や担当の検討に加え、どのサイトにも丁寧な記事が発出されており、二重三重になる事例があり、検討している。
- ・士会支援について、「今年度をもって終了し、次年度以降は形式を変えて引き続き都道府県理学療法士会との連携強化を進める。」と記載がある。具体的に今年度以降どのように、連携強化を進めていく予定なのか伺いたい。
→組織強化をこれからも引き続き続けていかなければならないという立場から、組織強化の推進部会を今年度発足予定である。その中で各士会長やブロック士会長も委員として、関東圏や近畿圏で近隣地域で組織強化の共有をするなど、そういった連携強化を検討している。
- ・理学療法士労働環境委員会の調査自体は基本的に経年的に見ていくのだと思うが、今後取り組んでいく予定や検討していくことはあるか。

- 毎年同一の調査をするのではなく、隔年で今年は女性の働き方、来年は職場環境、安全環境等テーマを変えて実施する形でもよいのではないかと部会で検討している。
- ・ 定点観察だけでは調査し切れないこともたくさんあるため、よいご提案だと思う。しかし、ここ数年同じ課題が上がってきているため、それについては何らかの取り組みを検討する必要がある。今後ご検討いただきたい。
 - ・ 台湾・韓国との合同イベントを検討されているとのことだが、現在、3国でどのような話になっているのか。アジアの交流がコロナの前に戻る必要があると思うが、そのあたりについても教えていただきたい。
→次のACPT学会は韓国で、オンラインで集まっていたメンバーが集まる。特に若手の理学療法士たちが集まり、イベントを企画して進めていこうということで、具体的に何をするのかについて、ACPT学会で対面にて調整すると聞いている。
 - ・ 報酬改定に向けた資料づくりなどを精力的にされているが、訪リハの部分の特出しにしなければ進まない。今の活動を踏まえ、お考えがあれば教えていただきたい。
→今、日本訪問リハビリテーション協会もまとめる作業と一緒にすることは合意しており、基本的考え方の文章の修正でキャッチボールしている。文章として合意したとき、正式に4団体で団体間の話し合いを進めていく準備が整うだろう。これは正式な団体間のやりとりだが、あとは政治の場所になるだろう。医師会が納得しなければならないという声が議員からも出ているので、そのあたりの調整をどう進めるのかという課題が残っている。どうすれば突破できるか、議員レベルでもいろいろなところで相談し、同時に動いている状況だ。
 - ・ DX や自動化を道具としてうまく使い、自分たちにしかできない仕事を描きながら進めていくフェーズに入ってきている。理学療法も、そういったことを重点化していくし、そういったものが教育や診療報酬との関係、生涯学習に実装していく複合的なもののトピックになるため、ぜひよろしく願います。
→看護のDX事例集が発出されたが、それは上手く出したと思う。NTTデータ経営研究所に外注しているのだが、音声入力などは看護に最適だ。以前も別の議論で申し上げたが、リハの音声によるカルテ入力はなかなかうまくいかない。全体を調査して、進めていきたい。
 - ・ 協会役員として何をどのように進めていくべきか、そういった話ができる場所を設けるべきである。
→役所からは、特に集団に対するエビデンスができていない、弱いと指摘されている。また、日本リハビリテーション医療DX学会の存在を厚生労働省は知らず、アピール不足が見受けられる。今、リハビリテーションに関するDXをアカデミックにやろうとしているところはそこしかないと思われるため、上手く足並みを合わせるとよい。

3. 会長行動録について (3月)

(齊藤会長)

会長行動録 (3月) について、報告がなされた。

(主な内容)

2026年3月分の会長行動録について、報告がなされた。

(主な意見)

- ・ 今月から検討会がスタートする。厚生労働省としては、人材が足りなくなり、人口減少地域、中山間地域の医療、福祉、介護をどう支えるが一番の懸案となっている。文部科学省では、大学が定員割れを起し始めており、ここをどうするか危機感を募っている。文部科学省と厚生労働省で意見が一致し、この検討会についても両方のサイドで立ち上げることになっている。逐一、情報を共有したい。
→願います。その13職種で、私たちは相対的にまだ人がいる職種に位置づけられている。引き続き主体的に取り組んでいく。

4. 事務局報告について (3月)

(白石専務理事)

事務局報告 (3月) について、報告がなされた。

(主な内容)

以下の点について、報告がなされた。

1. 会員動向
2. 財務報告
3. 賛助会員数
4. 公文書発信収受件数
5. 後援許可
6. 協賛許可
7. 共催許可
8. 事務部門報告

(主な意見)

- ・最近、入会率は50%台前半が普通になっており、それに対する意見も出なくなっているが、協会としては何%程度を目指しているのか。監事団から複数年にわたって話しているが、ほぼ改善されていない。前回、発言しようかと思ったのだが、今回も何も報告がない。目標値や今の取り組みについて、簡単でいいので共有をお願いします。
→再び理事懇談会の話を出して申し訳ないが、前回の理事懇談会で組織強化についてご意見をいただいた。それを取りまとめて、組織運営協議会で士会とも共有を図りたい。具体的な目標値は設定していないが、取り組みについてという返答である。
- ・数年前前から取り組んでいるだろう。中間監査でも申し上げたが、そろそろ結果を出すべきである。出ないのであれば、その原因は何か。そして、次の一手を変えなければならない。数年、ずっと同じ報告をしている感じがするのは私だけか。協会の財源はほぼ会費だけだ。普通の会社でいえば、売り上げ目標がない状態だ。監事団からも再三お話ししているが、検討が多い。検討はずっとされているが、そろそろその結果を出す。出ないのであれば、別の検討をするべきである。

5. 2025年度事業総括報告案および業務執行報告案の報告について

(斉藤会長、大工谷副会長、吉井副会長、佐々木副会長、高橋副会長、湯元副会長、白石専務理事、板倉常務理事、谷口常務理事、長谷川常務理事、森本常務理事)

2025年度事業総括報告案および業務執行報告案の報告について、報告がなされた。

(主な内容)

定款第37条にもとづき、定時総会へ提出するため、2025年度事業総括報告案および業務執行報告案について、報告がなされた。

(主な意見)

特になし

6. 役員報酬支給基準の決定プロセスについて

(白石専務理事)

役員報酬支給基準の決定プロセスについて、報告がなされた。

(主な内容)

2026年3月の理事会において役員報酬額を決議した。その際、「結論に至った経緯を理事会に示すべき」との意見を踏まえ、別紙にてその経緯について、報告がなされた。

(主な意見)

- ・役員報酬等委員会が様々なことを勘案して上限を設定しているため、理事会としてはそれを査定する立場になく、その根拠がないため上限額をそのまま尊重して運用するのが適切ではないかというシンプルな考え方だと思う。協会としては公益社団であることや、それが役員の責によるものではないなど、議論は十分にされていると思うが、整然とした形で説明できるようにしていただきたい。
→別の法人の例で、役員報酬規程で上限を決めるのだが、その額を目いっぱい支給するのではなく、それより少し下で支給している法人が多い。上限規定とは、総会や評議員検討会が、そこまでは払ってよいというだけのものであり、それが適切かどうかではない。
- ・総会では必ず役員報酬が高いという意見が出るため、もう少しロジカルな説明をしたほうがよい。上限額を払っているところに意見の出る原因があるのだと思う。

7. 他協会へのお願いについて

(斉藤会長)

他協会へのお願いについて、報告がなされた。

(主な内容)

一般社団法人日本作業療法士協会が発行する「日本作業療法士協会誌」掲載記事に関する事実関係の確認および是正対応のお願いを、文書で一般社団法人日本言語聴覚士協会と連名で行ったことについて、報告がなされた。

今後の対応に関し、必要な追加対応の権限を会長に一任いただきたい。

(主な意見)

特になし

8. 第61回理学療法士国家試験不適切問題に関する意見書提出について

(白石専務理事)

第61回理学療法士国家試験不適切問題に関する意見書提出について、報告がなされた。

(主な内容)

養成校からの問題指摘の中で、最も指摘率が高かった問題は午後の第57問であり、指摘率は59.3% (86校中51校)であった。例年通り、指摘率10.0%以上の問題について、計9題 (午前5題、午後4題) の不適切問題を、3月2日に厚生労働省へ意見書として提出するとともに、本会ホームページに掲載した件について、報告がなされた。

(主な意見)

特になし

9. 理学療法士労働環境委員会 報告書について

(白石専務理事)

理学療法士労働環境委員会 報告書について、報告がなされた。

(主な内容)

理学療法士労働環境委員会において、理学療法士の労働環境・処遇等に関する調査報告書が取りまとめられたため、報告がなされた。

(主な意見)

特になし

10. 第64回日本理学療法学会学術研修大会 公募について

(湯元副会長)

第64回日本理学療法学会学術研修大会 公募について、報告がなされた。

(主な内容)

2029年度開催予定の第64回日本理学療法学会学術研修大会に係る公募を、以下期間にて開始することについて、報告がなされた。

- ・公募期間：2026年4月中旬～7月31日まで

(主な意見)

特になし

11. 2026年保健文化賞・飯田賞の推薦について

(斉藤会長)

2026年保健文化賞・飯田賞の推薦について、報告がなされた。

(主な内容)

外部団体が表彰をおこなう「保健文化賞」ならびに「飯田賞」に対して候補者の推薦があり、受章候補者等推薦規程に沿って表彰委員会で選考を行った結果、本会として以下6名について推薦を行うこととしたため、報告がなされた。

<保健文化賞>

- ・西 亮介 氏 群馬県理学療法士会

<飯田賞>

- ・春名 弘一 氏 奨励賞 日本支援工学理学療法学会
- ・遠藤 正英 氏 奨励賞 日本支援工学理学療法学会
- ・田中 惣治 氏 奨励賞 日本支援工学理学療法学会
- ・小原 謙一 氏 奨励賞 日本支援工学理学療法学会
- ・阿部 浩明 氏 奨励賞 福島県理学療法士会

(主な意見)

特になし

12. 常任理事会の会議報告について

(白石専務理事)

常任理事会の会議報告について、報告がなされた。

(主な内容)

常任理事会の会議報告について、以下のとおり報告がなされた。

2026年2月3日開催常任理事会 議題

- ・「「偲ぶ会」の実施に関する内規（案）」および「「法人葬」の実施に関する規程（案）」について
- ・「奈良勲先生を偲ぶ会」開催概要（案）について
- ・業務執行理事報酬額の支給基準について
- ・日本学術会議会員候補者の推薦について
- ・理学療法士の名称使用に関する中央競技団体への対応とその結果について

2026年2月10日開催常任理事会 議題

- ・学会連合理事会の報告
- ・賛助会員【セラピストドットコム】のAI臨床支援システム「AI臨床Q&A」利用について
- ・「奈良勲先生を偲ぶ会」開催（案）について

2026年2月17日開催常任理事会 議題

- ・「奈良勲先生を偲ぶ会」開催（案）について
- ・SAFEコンソーシアムアワードにおける企業等間連携部門シルバー賞受賞について
- ・ペトリハの市場における理学療法士等の名称使用に係る医政局医事課への照会と回答について

2026年2月24日開催常任理事会 議題

- ・75周年記念 世界理学療法連盟への注目すべき理学療法士の推薦について
- ・大阪・関西万博の活動報告
- ・「SAFEコンソーシアム」広報委託および事務局運営公募企業のご提案に対する対応について
- ・業務委託契約（準委任）の解除について
- ・日本学術会議会員候補者の推薦について

(主な意見)

特になし

以上